

# 手術看護における意思決定 -術前外来での禁煙指導を振り返って-

聖路加国際大学大学院 看護学研究科

桑原舞

# 1. 背景

## 術前外来開始

- 部署の目標は、喫煙者の8割が禁煙できる。
- 患者指導用のパンフレット作り等に関わる。



## 術前外来

- 術前外来を担当する。
- 患者へ禁煙を指導する。



## 1年間の評価

- 喫煙者の6割が禁煙できた。
- 医師や家族に促される場面もあった。

患者の“意思決定”を促す  
支援であったのか...？

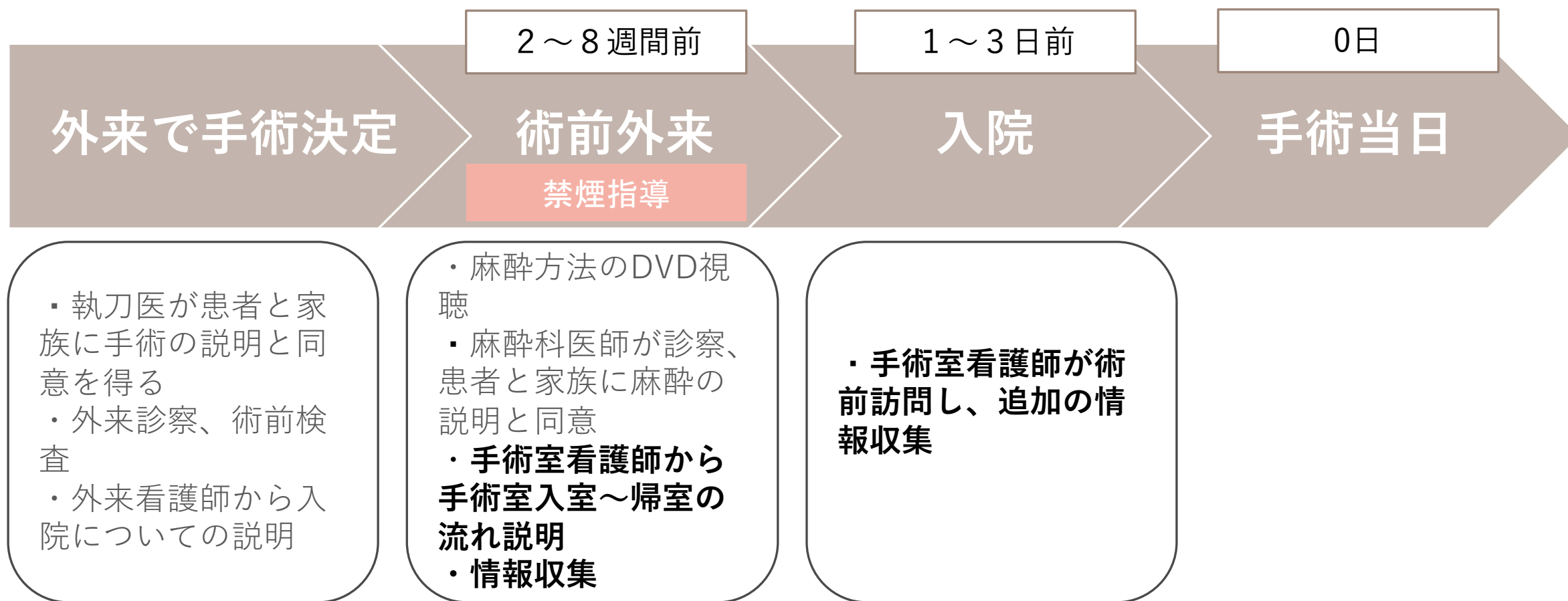


## 2. 目的

**“患者が意思決定できるような支援”という視点から改善点を見出す**

メリット・デメリットを説明した上で、患者が決定する関わり  
患者が自分の健康を見つめる機会にもなるのでは

### 3. 術前外来～手術当日までの流れ



## 5. 禁煙指導の実際

### ■ 術前外来

- ✓ 麻酔科医師は喫煙によるリスクを説明
- ✓ 看護師はパンフレットを使用して説明
- ✓ 対面で15～20分は患者さんと話をする

### ■ 術前訪問

- ✓ 患者指導の結果を確認
- ✓ 禁煙できた場合は成果を肯定する

#### \* 術前外来

手術数週間前に外来で、麻酔医の診察や手術室看護師と面談する。外来で麻酔の説明・同意や患者評価をすることで、リスクの早期発見・コントロール可能な合併症に対する患者教育ができる。手術直前の評価に比べて、患者への負担や医療費の増加を防げる。センター化している病院もあるが、場所や費用等の問題もあるので術前訪問のみの病院もある。(日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会, 2016)

#### \* 術前訪問

手術前日などに麻酔の説明・同意や患者評価などをする。手術室看護師も入院後に患者のベッドサイドに訪室して面談する。手術日直前に重篤な合併症が発見され、手術が延期になる場合もあり得る。

# 5. 禁煙指導の実際

## ■ 患者指導用のパンフレットの内容（要約）

- 狭心症や血栓症

タバコに含まれるニコチンによる有害作用により、狭心症や血栓症のリスクが増えます。脈拍も増え、心臓に負担がかかり、血栓ができやすくなり、脳梗塞などを発症するリスクがあります。

- 術後肺炎

タバコに含まれるタールによって、肺は炎症を起こし、塞性肺疾患を引き起こし、術後肺炎などのリスクが増えます。また、ニコチンにより気管支が狭くなり、術中に痰が絡みやすくなり術後肺炎の危険性が増します。

- 傷の治癒が遅れ、感染をおこしやすい

タバコに含まれるニコチンによる血管収縮や、気管支が狭くなることによる酸素不足の影響で、手術の傷の治りが悪くなります。さらに、免疫細胞の働きが抑制されるため免疫機能が低下し感染の危険性が増します。

リスクばかり



## 6. 改善点を考える

### 患者さんに伝える禁煙についての情報は？

#### ■ データ

##### ➤ プラスになる事実

- 禁煙後 2~3 日で酸素需給は改善し、1~2 週間で痰が減少する。禁煙後 3 週間で、術後の創合併症発生が減少する。禁煙後 4 週間以上で術後呼吸器合併症の頻度が低下し、6 ヶ月で免疫機能が回復する。(日本麻酔科学会, 2015)

##### ➤ マイナスになる事実

- 喫煙できないことがストレスに感じる可能性がある。



#### ■ 価値

- 酸素需給の増加や痰の減少で、息苦しさが増少することが期待できる。
- 術後の合併症が減少することで、予定通り退院できる可能性が高まる。
- 手術を機に禁煙することで、将来の病気発生のリスクが減らせる。

## 6. 改善点を考える

### ■ 患者が意思決定できる関わり

- タバコを吸うことに対してどう思っているのかを尋ねる
- 禁煙への意思を確認する
- 禁煙するために何ができるか、一緒に考える
- 禁煙ができるような医療者の支援体制
- 禁煙したことへを肯定する

## 7. 考察・まとめ

- 医療者が禁煙すると決めたような関わりから患者が決める関わりへ

医療者が“禁煙するべき”という姿勢で、禁煙を強く勧めていた。”患者が禁煙する“を自身で決めるためには、リスクだけでなくメリットや禁煙をする患者の立場でのデメリットを伝える。そして患者が価値と思うことも併せて伝える。そうしたうえで、患者が自分で決められるように一緒に考える関わりかたが必要であった。



**患者が自分で決めて行動できる  
自分の健康を考える機会にできるのではないか**

# 引用・参考文献

- 公益社団法人 日本麻酔科学会. (2015). 周術期禁煙ガイドライン [日本麻酔科学会]. <https://anesth.or.jp/files/pdf/20150409-1guidelin.pdf> (2021年6月16日)
- 竹内登美子(編).(2019). 〈講義から実習へ〉 高齢者と成人の周術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第3版.医歯薬出版.
- 日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会(編).(2016).周術期管理チームテキスト 第3版.公益社団法人 日本麻酔科学会.p334.